

● 防災・防犯

【目指す姿】

一人ひとりの安全意識の向上と地域のつながりの一層の強化

大地震や火山の噴火、台風や集中豪雨による水害や土砂災害など、毎年のように全国各地で自然災害が発生しています。

留萌市でも、これまでに昭和33年の元町大火をはじめ、昭和63年の留萌川氾濫による大洪水などの大きな災害に見まわれ、平成25年の記録的な大雪による交通障害など常日頃からの災害に対する備えの重要性を実感してきました。この間、これらの災害を大きな教訓として、河川の改修、下水道の整備、消防力の強化に努め、「災害に強いまちづくり」に取り組んできました。

また、国においては、東日本大震災を教訓に、「防災」に加えて「減災(被害を抑える)」の視点がより重視されるようになっていきます。

留萌市においては、今後とも、「より災害に強いまちづくり」を推進するために、市、防災関係機関、市民等が、ソフト・ハードの両面から様々な防災対策に取り組み、災害時における迅速で適切な対応ができる組織体制と危機管理のシステムづくりが重要です。

自分の命は自分で守るという「自助」を原則として、みんなのまちはみんなで守る「共助」、そして、防災関係機関が守る「公助」の一連の運用による防災機能の強化に向け、自主防災組織や企業とも連携した地域防災体制の確立を図っていく必要があります。

さらに防犯・交通安全に向け、特に子ども、高齢者、社会的弱者を守るため、定期的な巡回活動やイベントの開催、意識啓発活動、施設整備に取り組んでいかなければなりません。

そうした誰もが安心して住み続けられるまちづくりを推進していきます。